

《第4分科会》

(テーマ) 地域交流から育つ子どもの生きる力
～人とかかわることの楽しさを感じて～

(発表園) 東みずほ幼稚園

発表者	牧田 圭子
指導助言者	西山 智広
司会者	赤井 美紀子
記録者	山下 裕子

～研修レポートのまとめ～

【本研修会を受講して学んだことについて】

- ・地域の人との交流の継続したかかわりを持つことで子どもたちの「人とかかわる力」が育ち、たくさんの学びや成長があることを学んだ。
- ・保育の計画性と地域の方との連携が密になされており、そこで得た経験を日々の保育に活かしていて、連続性や活動のつながりを感じた。1つの活動をしておしまいではなく、心が動かされるようなかかわり方、子どもが自発的に触れられる環境構成や振り返りを通して、経験と経験をつなげていくことの大切さを学んだ。
- ・先生と子どもたちとで意見を出し合いながら失敗を成功の基に変え、そこに大きな喜びと交流を通して「人とつながる力」や「やってみようとする力」、「やり遂げようとする力」がみられ、子どもたちの「生きる力」が生まれていくことを学んだ。
- ・子どもたちが地域への愛情が持てるような環境作りが重要ということ、いつでも子どもたちの心の中に残るような環境構成を作っていくことが大切だということも学びになった。地域の人とも巻き込みながら、共に子どもたちを育てていくことの大切さや良さを改めて感じる事ができた。
- ・子どもたちは今を生きており、今日の前にあることは楽しむが、時間がたつと忘れやすい。地域の人とのかかわりも日常的に親しみを感じられるよう職員が意識をして、交流や経験などで得たことを言葉や写真などで伝え、いつでも子どもたちの心の中に残るような環境構成を作っていくことが大切だということも学んだ。

【本研修を受講して、今後の保育実践に活かしたいことについて】

- ・単発的ではなく継続的にかかわること、「何をするのか」ではなく「何の力が育まれるのか」を考えてねらいを持ち、自園では何ができるかを考えていきたい。
- ・子ども自身が考え学び、行動していけるよう環境を見直し、保育者自身も子どもと一緒に楽しさ面白さを共有できるように保育していきたい。
- ・コロナだからできないではなく、何ができるかという視点で保育や地域交流の見直しをしていきたい。
- ・年間計画の中に位置づけた継続的な活動であること、園(職員)と地域が信頼関係を築き、その姿や思いが子どもたちに伝わった活動である。子どもたちの「なんで？」と不思議に思う気持ちに寄り添い、「〇〇したい」という意欲を大切に、一緒に考えていくことができる保育者でありたいと思うと同時に、そういう仲間(職員)を育てていきたいと思った。

【ご意見・ご質問及び回答】

- ・米作りを通して子どもたちの主体性や人とかかわる力の変化や育ちを感じ、園児とおじいさんの心温まるかわりが双方の「生きる力」となっているように感じた。
- ・幼児期から、私たちも人のために何かしたいという気持ちの芽生えを見逃さずに形にすることが大切だということを感じた。ふるさとで学び、社会の役に立ちたいという思いや、問題解決に向かって自分にどんなことができるか考える力を育み、ふるさとキャリア教育にもつながっていくのだと思った。また、このことを若い職員にも伝え、次世代へつなぐことが大切だということも学びになったと思った。

【その他】

- ・プランターでも育てられるお米作りにも、挑戦させてみたいと思った。全く知識はないが、Y君が言っていたように「失敗しても良い、やってみんとわからん！」と思い、来年提案してみようと思った。